

全佛婦

No.120
2015年新年号
1月1日発行



公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

全佛婦120号

平成27年1月1日 発行日

広報委員 編集人

末廣久美 発行人

発行所

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷

4-5-10-205

03-5772-0677 電 話

<http://jbwf.jp//> URL

info@jbwf.jp MAIL

本多良之師 表紙画

慈悲行

曹洞宗管長
大本山總持寺貫首
江川辰三



あけましておめでとうございます。
謹んで平成二十七年（二〇一五）乙未（きのとひつじ）の新年を寿ぎ、全日本仏教婦人連盟の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

皆様におかれましては、常日頃、女性の立場から社会および家庭生活の中に、「慈悲」の心をつちかうことを目標として、その具体的展開として様々な社会福祉活動に取り組んでおられますこと、ここに深く敬意と感謝の意を表します。

ここ数年毎年のことであり、まことに心が痛むことですが、昨年も日本各地において、自然災害による多くの甚大なる被害が発生しました。

東日本大震災においても、関連する様々な問題や不安が今も継続しており、本当の復興に至るまでには、まだまだ険しく大変な状況であります。

總持寺では、一昨年の平成二十五年三月に、東日本大震災の物故者への慰霊供養と復興祈願の気持ちを捧げるために、「平成救世観音像」を被災地を望む山内の丘に建立しました。また、毎年「祈りの夕べ」という行

事を開催して、地元の多くの方がたにご参加いただき、被災地への思いを決して風化させずに、絶えずお互いに共有していくように取り組んでいます。

われわれは、常に被害の現実に向き合い、苦境にある方がたと寄り添い、でき得ることを積極的に行ない、そして共に生きる歓びを分かち合うことを決して忘れてはなりません。支え合うところに、道は必ず開かれていきます。

さて、二十一世紀になって早いもので、もう十五年目に入りました。

わが国の科学技術の分野に関して言えば、老衲が若いときに思い描いた状況よりも、遥かにレベルの高い進歩を遂げており、今後もその進歩は、最終的にどこまで到達するのか、全く予想がつかないほどであります。

しかし一方、人びとの心のありようについて考えてみた場合、昔よりも現代が、一体どれだけ幸せな状況に向かって進んでいると言えるのでしょうか。

自ら七十年ほど前を振り返り、戦後の物資の乏しい混乱の時代と現代

とを比較してみても、どちらが人心の荒廃の度合いが甚だしいかは、正直容易に判断しがたいところです。

むしろ世界で起こる痛ましい戦乱や、国内で頻発する信じられないような凶悪犯罪が連日報道される昨今、世の全体が、一段と暗い方向に向かっているようにも感じられます。

この現実を真摯に受け止め、自らの宗教者としての果たすべき使命を省みる日々であります。

さて、老衲が至り得た結論は、これからのわれわれの社会生活の中で最も求められているのは、当連盟の掲げる「慈悲」の行ないにほかならないということです。自己本位の見方だけに固執しがちな、争いの絶えない今の時代こそ、この他者を尊ぶ教えが実践されていかなければなりません。

「利行は一法なり、あまねく自他を利するなり」と永平寺開祖道元禪師様は示されました。すなわち慈悲の利行とは、まわりの人びとを計り知れない安らぎに導く行であると同時に、その人自身にとっても無量の利

を実現する行であります。

この慈悲、和合利他の行ないを終生の誓願とされたのが、總持寺開祖瑩山禪師様でありました。瑩山禪師様は、堅固不拔の志により「衆生済度」のために、そして特に「女性済度」のために全身全霊を傾けられました。

われわれ、み仏の教えに随順して生きる者は、今一度この慈悲行について深く噛みしめ、現代社会に適した形で、布衍していく必要があります。共に精進を重ねてまいりましょう。

最後になりましたが、その瑩山禪師様からみ教えを相承するとともに、数多くの優秀なお弟子を育成して曹洞宗発展の礎を築かれたのが、總持寺二祖峨山韶碩禪師様です。本年は、その峨山禪師様の六五〇回大遠忌の年にあたり、宗門を挙げて報恩の大法会が営まれます。

ぜひともこの佳辰にあたり、總持寺にご参拝され、ご勝縁を結ばれますことを衷心よりお願い申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

最近、社会的なニュースで、お詫びのシーンをよく見かけます。企業のトップが、省庁やその外郭団体の責任者が、そして国の代表である政治家が、自分たちの組織が起こした不祥事について詫びているのです。

食品や住宅の偽装、欠陥住宅、データー改ざん、医療ミス、使い込みに浪費、事故や職員・社員の起こした事件、不祥事など……。――

連日のように報道される、トップが世間に向けて謝らねばならぬほど深刻なミスや失態がこんなに多いという事実自体がとても嘆かわしく、実態を知るにつけ『私たちは、いったい何を信じて暮らしていけばいいのだろう』という不信感・不安感は募るばかりです。

そして、その不信感・不安感をさらにあおっているのが、お詫びの

際のトップたちの情けない姿です。ニュースで報道されるような会社や組織は、どこも『一流どころ』ばかりのはず。

大社長や責任者といえど、よほどの人物であってしかるべきなのに、多くのトップや責任者たちのお詫びの際の歯切れの悪さや不遜な態度、無責任な物言いに、怒りを通り越して呆れ返ることも少なくありません。

社会に深刻な影響を与えているというのに、会社や組織の利益や自分の地位を守ろうと、『自分（上層部）は知らなかった』『一部（末端）の人間がやったこと』などとひたすら責任を回避したり、責任の所在を明らかにせず保身に走ったり、ひどいときには被害を受けた人をおとしめるような発言まで飛び出す始末。

さらには謝罪会見の席上で報道陣から厳しい質問が飛ぶと『逆ギレ』するトップまで……。非常に見苦しく、情けないものがあります。

被害の当事者でなくとも、会見の様子を見た世の中の人々は、そんなトップの態度を見て、さらに不信感や怒りが大きくなります。あれではなんのためにお詫びの会見をしているのかわかりません。

たしかにトップが全面的に謝罪すれば、その後、被害に対しての賠償責任などが生じてくるため安易に謝るわけにはいかないという心情もわからないではありません。けれども彼らは、目先のダメージをできるだけ小さく、または回避しようと思ふあまりに、姑息で誠意のない謝り方をしたことで、後々さらに大きな損失が出ることを理解していないのです。

ニュースになるような不祥事を起

お詫びの場面で人の「器」がわかる

こしてしまった時点で、世間の評価はすでに下がっています。きちんと謝罪しなかったことで、さらにその組織、企業に対するイメージや信頼感がガタ落ちするのです。一度失ってしまった信頼や、ついってしまったグーティなイメージは、一朝一夕では払拭することができません。

しかし、見方を変えると、謝罪会見は、起こってしまった不祥事のダメージを一転させるチャンスでもあります。企業や組織のトップが誠意を持って潔く謝罪し、今後二度とそのようなことを起こさないための改革案を具体的に説明して、被害を受けた相手への誠実な対応を含めて迅速に行う決意を表明すること、不祥事自体で地に落ちた評価・信頼をわずかも回復させる格好の機会になり得るのです。

世間は、事件や不祥事後にきちんと謝罪して誠意ある対応をするトップ・企業や組織には意外に好意

的です。きちんと詫びないトップに対してはいつまでも非難が集中し、バッシングの声が止みませんが、自分の責任を認めて謝った人には、同僚論が起こったり、その後の対応を静かに見守ろうという前向きな目が向けられます。

血液製剤問題で国の責任を初めて認めて謝罪した当時の厚生大臣である菅直人氏、最近ではイージス艦と漁船の衝突事故の際、自分の責任を認めて涙を流し謝罪したイージス艦の船長などが、そのよい例でしょう。

人は、世の中は、ミス自体ではなく、ミスを犯したあとの謝罪の姿を見て、その人の評価を決めるのです。言い

変えれば、お詫びの場面で人の「器」がわかるのです。

『詫びると損をする』という感覚は捨てるべきです。昔から『負けるが勝ち』『損して得とれ』ということわざもある通り、潔いお詫びは物事を好転させます。

失敗を潔く認め、反省し、二度と同じ過ちを犯さないという決意のもと、相手に誠意を持つて詫びることにより、あなたという人間は周囲に許されて再び認められ、結果的にひと回り大きくもなれるのです。

安田暎胤
『生きる幸せに気づく五つの心』
（主婦と生活社刊）より

間違いを犯した後のお詫びの姿勢で、
あなたという人間の評価が決まります。



【安田暎胤】昭和13年岐阜市生まれ。昭和25年12歳で出家し、薬師寺に入山。橋本凝胤師の薫陶を受ける。昭和37年龍谷大学大学院修士課程修了。昭和38年宗教者平和使節団員としてローマ法王との謁見を始めヨーロッパ各地の宗教者と懇談。昭和39年名古屋大学学術調査隊員としてアフガニスタンを踏査。昭和42年薬師寺執事長就任。平成10年に薬師寺副住職、平成15年、薬師寺管主となり、現在は薬師寺長老。公益財団法人国際仏教興隆協会理事長。



御垂示

大本山善光寺大本願
法主 鷹司誓玉台下

本日第六十一回公益社団法人全日本仏教婦人連盟大会の開催に当たり、かように多くの会員諸氏にご出席を頂き、ありがとうございます。近年わが国にはいかなる

星の巡り会わせでございましょうか、様々な自然災害が起こりがちで、皆様方もそれぞれのお立場でご心痛のことと存じます。なにとぞ社会が安定し被災者の方々のご生活が一日も早く元に戻られることを、心から念願しております。先年の東日本大震災でも全国的に随分と激しい被害がございました。長野県はそれまであまり激甚な被害はございませんで

したが、この東日本の震災で、長野県内でもことに最北の新潟県と隣り合わせの栄村は、今までに経験されたことのないほどの大きな被害を受け、三年もたちました現在もお仮設暮らしを抜けきられず、寒い冬に向かって日々の暮らしに難渋しておられる方もいられるとお聞きしております。それでも山国の方々の生活力は誠に力強く、また生活の知恵工夫はすばら

Memo

✓ 写経1500巻

写経1巻につき1000円をご奉納いただき、1500巻をインド・ビハール州のブッダガヤにある日本寺に納経しております。境内にある無料医療施設の光明施療院の運営費として奉納金150万円を公益財団法人国際仏教興隆協会に委託しています。

国際仏教興隆協会の活動は

- ★インドにおける教育（無料教育施設「菩提樹学園」を活動拠点とする幼児教育・初等教育の実施）
- ★医療福祉および防疫に関する事業（無料医療施設「光明施療院」を活動拠点とする医療福祉ならびに防疫事業の展開）
- ★その他学術研究や文化活動

✓ はまなすの会

被災後、釜石市の箱崎仮設住宅で、未だに寄り添うように集まり、寄付されたいろいろな素材を工夫して手作りして、支援団体の協力のもと販売をしています。皆さまの素材のご寄付や買っていただくことが大きな励みになっています。

✓ 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

(Shanti Volunteer Association、略称：SVA) は1981年に創立された日本の国際開発NGO。2011年公益社団法人認可された。アジア（カンボジア、ラオス、ミャンマー、アフガン、タイ、など）の教育・文化支援事業、および日本国内を含めたアジア各地で災害救援事業を行っています。シャンティはサンスクリット語で、「平和、寂静」の意味。

✓ 広島土砂災害

【支援最新報告】

★安佐南区の広島土砂災害コミュニティサポートの拠点と安佐北区復興連携センター「すまいる」主催のすまいるカフェでの足湯を北区大杉集落で行った。

★大杉集落には50～60軒あるが、上大杉と下大杉の二つに分かれており、被災したお家は下大杉に多い。

★そのため、上大杉の方は遠慮してあまり参加されず、今後は地域の中でそうした隔たりをなくしていけるような工夫が必要になるだろう。

【被災者のつぶやき】

★バイパスも完成したばかり（今年3月完成）だけど、崩れてきた。だいたい崩れるように作ってるんだから、壊れるのは当然。早く対策してもらわないと…

★いろいろもらってばかりでありがたいけど、申し訳ない。なんにもお返しができないけど、ありがとうございます。



10月21日（火）東京千代田区の93年の歴史ある東京會館にて第61回大会がご来賓、会員100余名の参加をいただき、開催された。第一部法要は、御導師名誉会長鷹司誓玉台下、式衆全日本仏教尼僧法団のもと厳肅に執り行われた。御垂示、会長挨拶、ご来賓の祝辞に続き、26年度写経1500巻を（公財）国際仏教興隆協会に贈呈した。

末廣久美理事長から、新役員として浄土宗寺院婦人会会長の加用稔子さんを副会長に、林恵智子前事務局長を顧問に迎えたことの紹

介、続いて会長より林姉にこれまでの功労を称え、感謝状と記念品が贈呈された。林姉は「人というのは人の心を読み取って相手の気持ちにならないければ人間として成長しないと常々教えられました。そして一所懸命仕事をして、これまで50数年間仏教界で過ごすことができたのは、このような心の深い方々が周りにたくさんおり、助けていただいたおかげと思っています。この度、次世代の役員に交代しましたが、ご来賓の方々のお話のように現代社会の中で抱えている諸問題に取り組み素晴らしい活動をして頂きたいと思っています」と挨拶をされた。休憩の間、受付前のバザーではまけないぞう、釜石の「はまなすの会」や会員有志の方々が作られた手芸品等が販売され、たくさんの協力を得た。



第二部に移り、末廣理事長が先に発表されたノーベル平和賞受賞に触れ、当連盟も国際仏教興隆協会、全国青少年教化協議会、日本仏教保育協会との協力体制の中、インドなどで活動しているが、アジアの女性や子供たちのための、この福祉活動そのものが評価されたのではと話し、この福祉事業を更に今後も継続していくことを誓った。またこれからは子ども達の未来のために家庭・教育環境等を仏教婦人として考えて

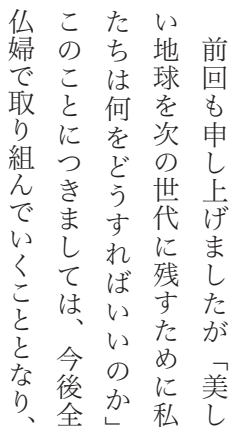
取り組みを深めて行くことを改めて決意したと挨拶した。

桶屋良祐師の乾杯のご発声で始まり、会場はハープの音色で包まれ、終始和やかな雰囲気の中で懇親会が進み、常日頃皆様にかかけお預かりしている心の募金から、ミャンマー難民支援金としてシャンティ国際ボランティア会に10万円を寄贈した。また当日皆様から募金17万円のご協力を得て、8月に土砂災害があった広島に災害支援金として広島在住の加用稔子副会長に託した。後日、副会長より広島市役所に確かにお届けした旨の報告があった。

なお、これまで10年間支援してきたアフガニスタンの「ぶどう基金」が実を結び、参加者には製品となった干しぶどうをお土産としてお渡しした。

季節のよいときに山に入つて山菜などを採取しておき、お漬物など保存食を作つて生活の糧を得る手段にされたり、また配合飼料を使わないで鶏の卵を得るために、いわゆる養鶏に力を尽くしていらつしやいます。素朴なおいしいケーキをそれによつて作り、近くの町に販路を開拓したりという地道な努力を積みかさねておられるとの事で、心から敬服いたします。素材を厳選しての有機農業など、私共も少しでも学んで実践したいものと思ひます。

本日は、ご多忙の皆様にもようこそ。ご出席いただきありがとうございます。ご参りました。今後ともご健勝でよりよい日々をご精進ください。ように念じ上げます。ご来賓や講師の先生方にもこれからも何卒よろしくご指導下さいますことお願い申し上げます。本日はありがとうございます。ご参りました。



私も微力ながらお手伝いさせていただきます。五十年後の紅葉はクリスマスのころになると、一ヶ月前くらいに新聞に報じられておりました。本当に地球温暖化は深刻だと思います。

また、最近気になりますのは自己中心、自己責任ではなく他人責任ですね。何か起こっても自分のせいではない、人が悪い、会社が悪い、社会が悪い。そういう人が本当に多くなってきたように思います。これからの未来を思うと不安な気持ちは多々あります。皆様もそうだと思いますけれども、お寺でも今までの祈願はご自身のこと、家庭のことを願われる方が大

元具子

先程は鷹司誓玉台下の御導師による法要をお勤め頂きまして大変ありがとうございました。全日本仏教婦人連盟の会長をお引き受けいたしました。早一年がたちました。理事長様はじめ会員の皆様方のご指導のもと、何もわからないままに前回の六十周年記念大会の後、関

へえ！
そうなんだ。

「あることかたし」つまり、なかなかありそうにないことで、「珍しい」「恐れ多い」「かたじけない」ということになり、「有難う」という感謝の言葉になったと思われる。

何がそんなに「有難い」のかといえば、実は「人間としてこの世に生まれ出たことが有難い」ということなのである。僧侶が読経の始めに「人身受け難し、今すでに受く、仏法聞き難し、今すでに聞く」と称えるが、これは人間としてこの世に生を受けたことは有難い、つまり稀有なことだ、だから有難い、仏の教えを聞くことが出来たことは有難い、という感謝の言葉なのである。

もっと美人に生まれてくれば良かったとか、もっと頭がよく生まれてくれば良かったとか、思っている人も多いと思うが、これは大変な罰当たりなことである。ゴキブリに生まれて来なかったことを、感謝すべきだとはいわないが、仏教の教えによれば、人間に生まれてくる確率は、気の遠くなるほど少ないのである。大海に浮かぶ穴の空いた木片に、盲目の亀が百年に一度浮上して、偶然その穴に首をつっこむほどの、少ない確率と教えているからである。

仏教を信じる人は、これを聞いて一度で参ってしまうが、不信の人は「頼みもしないのに私を産んで!」と親をせめたりする。

総じて、現代人は感謝する心がなくなってしまった。「お陰」も「ご恩」もすべて捨ててしまった。有限の人生にあって、無限の欲を追い求めても、そこには「苦」が残るだけだというのに。

西交流会をして今年の修正会、6月には石巻市立女子高校と小竹浜仮設住宅を訪問いたしました。

震災以後ずっと頭の中にあつて、それがようやく実現いたしました。「貴方の心の準備が出来たから行きなさい」という仏様のお導きだったと思います。私たちは震災に遭われた方と同じ体験することは出来ません。でもその人たちの気持ちに寄り添うことは出来ると思うのです。仮設住宅では、緊張の面持ちのまま会が始まりましたが、

そのうち段々皆様の気持ち解けて、最後には小竹浜音頭を皆で踊りました。そして、その音頭を年配の方々がすぐ楽しそうにまた嬉しそうに本当に心から歌っていたできました。会が終わりになるころ、私の隣にいらしたご婦人が「私たちを忘れないでまた来てくださいね」と、言われました。失われた人や物はもう二度とは戻ってきません。でもその思いは永遠に生き続けているのです。人はよいよい方向を目指しています。

書間玄明師著『生活のなかの仏教語』(1995年3月、すずき出版刊)より

変多うございましたが、最近は「世界平和」と書かれる方が多くなりました。それだけ皆様の心の中にひしひしと不安が迫っているのではないかと思えます。私も自分の力でどのくらいできるのかわかりませんが、皆様と力を合わせて頑張っていきたいと思えます。

ご来賓の皆様また会員の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。あ

りがとうございました。

日ごろより全日本仏教会に対し
未廣久美理事長はじめとして多く
の方々が本事業に対しご理解ご協
力賜り、また今期31期も公益財団
法人として第二期目でございます
けれど、鷹司誓玉台下名譽会長にお
かれましては本会の副会長として
活躍を頂いておるところでござ
います。この場をお借りして御礼を
申し上げます。ございます。

す。また現代社会は環境が激変する中、様々な問題が起こっております。ともに釈尊の教えを通してのおのが何をすべきか問い、学び、そして聴き、お互いが出来ることを伝えていくということが一番大切なことではないかなと思うことでございます。こうした一期一会のたいせつな時を実りある一日としていただきお過ごし頂ければ幸いです。

終わりに当たりまして、全日本
仏教婦人連盟の益々のご発展と皆
様のご活躍を念じ申し上げてご挨拶
とさせていただきます。

公益財団法人
全日本仏教会事務総長
倉澤豊明

只今ご紹介賜りました全日本仏
教会事務総長を仰せつかっており
ます倉澤でございます。本日は公
益社団法人全日本仏教婦人連盟に
おかれましては、このように盛大
な第六十一回大会を執り行われま
すこと、心よりお慶び申し上げる
ことでございます。本会を代表し
て一言ご挨拶を申し上げます。い
ただきます。



仏教団体が所属する、わが国の伝統仏教会を代表する連合体です。

さて、貴連盟におかれましては新たな決意のもと、社団福祉活動と社会福祉活動に邁進しておられ、子どもたちの未来のための活動を本格的に始動しておられます。

孝道教団 副統理
岡野 鄰子

本日は、全日本仏教婦人連盟が
 六十一回の齢を重ねた大会でござ
 います。おめでとうございます。
 何時ものように尼僧法団の代表で
 あられる鷹司(台下)の御導師のもと、
 莊嚴なるご法要に随喜させていた
 だきました。

育てていただいて、時期が来れば生まれてくるわけでございます。このような関係は、社会がどれほど変化しても変わることなく永遠に続いていくのです。

これを踏まえて、第六十一回の大会を迎えた全日本仏教婦人連盟はどのような存在でありましょうか。仏教の精神、お釈迦様のお心をご婦人の皆様方に永遠に伝えていく、親子の絆をしっかりとつくる、また家庭というものをしっかりと守っていく、素晴らしい家庭を築いてもらう。このようなことが、仏教婦人連盟の永遠の課題の一つであると思います。時代は変わっても、「仏婦」の役割、課題というのは変わらないのではないのでしょうか。

国内全体を眺めると、家庭の崩壊、歪んだ親子関係が見えてきます。

日本はもちろん世界の国々でも、ご婦人の力は家庭を守り、家族を支え、立派な子供たちを育てていく原動力だと思います。母親の力、女性としての大きな使命を、仏教の精神に基づいて敷衍^{ふえん}することが、日本の国に幸せな家庭を増やして



そして只今親睦の集いが始まるうとしております。全日本仏教会の代表の方もおしゃつておられましたように、仏教婦人連盟では『子供の未来』ということを一つのテーマとして掲げていらつしやるわけです。勿論、日頃の福祉もそのテーマの基本になっているものだと思ひます。

実は、私自身も大変現代の子どもたちに関することを危惧しているところでございます。皆さま、ご存じの通り日本社会では、大人も子供も「スマホ」を日常的に便利な生活の中のツールとして使用しています。しかしこの「スマホ」によって、少女たちの犯罪が三年間で七十倍になったことを知りました。原因は出会い系サイトを通じて悪い男性の誘惑に巻き込まれて深刻な問題にまで発展している

と云うことです。

人間は人と人との繋がりがないと不安になり孤独になるものなのでしょう。繋がりと云えば、千二百年前に比叡山をお開きになった伝教大師さまが、『一目の羅、鳥を得ず』と云うお言葉を残されていますが、網の目のように繋がって、始めて目的を果たし、満足するのですから、少女たちも誰かと常に繋がっていたい気持ちには理解できます。しかし安易に「スマホ」を通じて出会う相手に一生を台無しにされる危険をどうにかして大人たちが防がなくてはならないと思います。まず親・保護者の家庭教育の見直し、そして一般社会では、むしろ、繋がるインターネットを通じて少女たちの心を満たす精神教育をどんどん流して、どこかでよき縁と繋がって欲しいとせつに願っております。

全日本仏教婦人連盟の今後のご活動を祈り、ご挨拶とさせていただきます。



今日は公益社団法人全日本仏教婦人連盟第六十一回大会がこのように盛大に執り行われますこと、誠にありがとうございます。諸大徳の先生方がいらつしやる中、乾杯のご発声のご依頼を受けて壇上に上がらせていただきました、念法真教の桶屋良祐でございます。宜しくお願い申し上げます。

今、世界中がインターネットでつながっております。Googleのエリック・シュミット会長は著書『第五の権力』の中で、「2025年、世界人口80億人のほとんどが、オ



ンラインでつながる。誰もがインターネットへアクセスでき、誰もが世界中とつながり、自由に発言をし、革命を起こすパワーさえ手にできる」と仰っています。新聞やテレビなどマスコミを「第四の権力」と言いますが、シュミット会長はインターネットを「第五の権力」と分析しております。

2010年末頃に中東・北アフリカ地域で始まった「アラブの春」と呼ばれる民主化運動は、インターネットが可能にしたと言われています。チュニジアやエジプトなどの政権が倒れたのですから、まさに「第五の権力」です。

時代は刻々と変化しております。今の世の中は、お釈迦様の時代からは到底、想像も出来ない世界であります。ほんの十年前でも想像出来なかったのではないのでしょうか。「変化のスピードが早い」とも言われています。

そうは言っても永遠に変わらないものもございます。例えば、親子関係です。

私達は母親のお腹から生まれてきました。インターネットが普及しても、私達は母親のお腹の中で

いくことになるかと思ひます。世界の家庭を守るためにも、とても重要だと思っております。

私達はお寺を預かっておりますが、檀信徒の皆様にとりまして、男性の院主様よりも奥様とのつながり、そのお寺を守って下さるご婦人とのつながりがホッと出来る側面もあるのかなと思ひます。ご婦人との些細な会話や悩みの

相談、あるいは話し合いのひとときというのは檀信徒の方々にとって、心の安らぐものだと思ひます。通じてつくづく感じております。

お釈迦様の教えを全国の家庭に広め、生かすことが出来れば、全日本仏教婦人連盟はより大きく発展することでしょう。これから日本の国が発展するには、まずしっかりとした親子関係を築き、素晴

らしい家庭を増やしていくことが前提であります。

皆様方には、この全日本仏教婦人連盟を通じて、日本の家庭、そしてご婦人の使命を敷衍していただきたいと思います。

全日本仏教婦人連盟の益々のご発展を願い、乾杯させていただきます。乾杯。どうもありがとうございます。

生活の中の仏教用語 ②

愛【あい】

キリスト教は「愛」の宗教といわれるが、仏教で使われる「愛」は、悪い意味として使用される場合が多い。

「愛著《あいじゃく》」とは、のどが渇いたときに水が欲しいというような、激しいむさぼりを意味するし、「割愛」という言葉も同様に使われている。「愛染」という言葉も、むさぼりという意味

であり、煩惱の一つである。愛染明王が、染物屋の守り神となっているのは、「藍を染める」(藍染＝愛染)と音をかけたことによる。

古代日本では、愛を「いつくしむ」「おしむ」「めでる」と読み、音は「え」であった。今も愛媛県にその音が残っているが、要するに、悪い意味には使われていなかった。

ところが、仏教が入ってくると、「愛」は「ものをむさぼり、それに執着(仏教語としては執著《しゅうじゃく》)する」とか「欲望の満足を求める心情」を意味する言葉になった。心の執着を離れることを一大目標にしている仏教にとって、「愛」はまさに煩惱の一つであり、「はなれるべきもの」となった。

キリスト教の「愛」に対するものは、仏教でいえば「慈悲」という言葉になる。「人類愛」「人間愛」という点についていえば、キリスト教の愛も、仏教の慈悲と握手出来るかもしれない。愛の裏には「憎しみ」があり、愛が深いほど憎しみが増すが、慈悲の場合は他に対して与えるだけで、その見返りを期待しない……ということになっている。

いずれにしろ、どの宗教でも究極のところでは「言葉」というものを信用していない。それは言葉は汚れるし、変化するからである。

仏教婦人として婦人の立場から家庭の中に深い生活の信条の基盤となる仏教的精神を培い社会福祉に貢献することを目的に設立した全日本仏教婦人連盟。

写経運動始め里親運動、心の募金運動等その他いろいろ活動を手掛けてまいりました。その中の一つが「一本のタオル」運動です。

この運動は、今から二十年前の平成七年一月死者六千人余、被災者四万人とも言われた阪神淡路大震災から二年目の平成九年の春、仮設住宅に住まわれた被災者の一人である女性のアイディアによって一本のタオルから「まけないぞう」が生まれ「一本のタオル運動」として始められました。

当連盟では、何か支援をと案案しておりました折に、平成九年一月十六日に全日本仏教青年会の方より当連盟会員にバザー支援の呼びかけがあり、神戸市大本山須磨寺境内で炊き出し（うどん・おでん等各一千人分）のお手伝いや集まった支援物資の手渡しなど、前島田喜久子理事長始め会員有志が朝早くから奉仕させて頂

のうち100円が作り手の収入となり190円がタオル以外の材料費、その他は製品輸送・通信等として支援活動費に使われます。

こうした「一本のタオル運動」は「支えあい・助け合い」のシンボルとなり、その後国内外で起こった被災地（能登、新潟、東日本、トルコ、インド、中国・台湾等）へと、救援の輪を広げ各地に届けられ大変喜ばれてきました。当初、一万本近いタオルがまたたく間に集まりましたが、年々少なくなり今では500本くらいになっております。

「ぞうさんを作っていると苦しいことや悲しいことも忘れてしまう」

「ぞうさんが出来上がると心が和み、またがんばらなければと思います」等々の多くの声をきいたり、またタオルを送って下さったある支援者の方が交通事故で入院していた娘さんに「けがにまけないぞう」と言って被災者の話をしながら「まけないぞう」を渡したら大変喜んで私も頑張るといつてくれましたと、お便りを頂いたりしますと、送った私たちのほうが癒されているような気持ちになってしまいます。

「作り手」と「送り手」の一人一人の



一本のタオル運動から N G O 協働センターとのきっかけ

公益社団法人全日本仏教婦人連盟

顧問 林 恵智子



きました事は今でも忘れることはできない思い出のひとつです。

その年の十月十五日には大本山須磨寺において第四十四回大会を全日本仏教会とともに開催、阪神淡路大震災犠牲者三回忌法要並びに須磨寺仁王門に隣接する山内の一角に建立された物故者追悼碑の開眼法要を厳修させていただきました。その大会において「心の募金」より金一封を現地N G O に支援、その時の話の中に被災地では、震災の影響で多くの人が職を失い、働こうとするが仮設住宅と勤務地が遠く通いきれない、仮設住宅に住んでいるということで採用されない、この繰り返しながやがて仕事をする意欲をなくしてまいります。そんな現況を考え現地センター（現N G O 協働センター）が中心となって被災地での仕事づくりの場としてタオルの呼びかけを開始し、被災者の心の癒しと手助けにと、支援してまいりますので、ぜひご協力をお願いしたいとお話があり、早速当連盟の活動として理事会の承認を得て運動を開始いたしました。まけないぞうは、定価400円でこ

小さな力が集まったこの運動は、私たちの最も身近なところでできる当連盟の目的にあった活動ではという信念で現在に至っております。十七年という歳月は長くて短いようですが会員の皆様、多くの一般の方々のご協力によるものと感謝いたしております。

この活動を振り返り、被災地から被災地へ「支えあい・助け合い」の輪が拡がり、事業とは継続することが大切だとしみじみ考えさせられました。

故一條智光上人がよく仰っておられました。「インドに施療院を開院しても継続できなかったら何にもならない。継続していくことが大事なのです」と、今更のように想い出されます。長い経験から考えますと、どんな素晴らしい事業であつても単発的な思い付きや情にながされての活動は一見成功したかのように見えますが、様々な点で不足していることに気付かれます。多くのご縁を頂き素晴らしい経験を宝にしなが、公益法人として、仏教に携わる女性として、当連盟の今後の活動を真摯に受け止め向き合ひながら、続けてまいることこそ私たちに与えられた使命ではないかと思えます。

子育てとは、 名実とも親になること

台東区ことぶきこども園 元園長 湯地和夫

今子ども達がおかれている環境は……！
社会では…… 教育現場では……
家庭では…… お聞きしました。

子供は未来の社会の担い手。特にこの美しい地球を大切にし、社会の矛盾を解決し、誰もが生き甲斐のもてる社会を創造していくのは今の子どもたちです。それ故我々大人には、先祖からそのように育てていただいたように、全ての子どもたちが幸せに生きていけるよう育てていく責任があります。しかし、現状はどうでしょうか。どうしたら大人の責任が果たせるでしょうか。

私はこの二年間、大変貴重な経験をしました。小学校教師を定年退職した五年後、東京都認定こども園の園長職に就きました。こども園は零歳児から五歳児までの乳幼児を預かる教育・保育施設で、二百名を超える子どもが生活しています。今まで五年間の区立幼稚園長の経験はあるものの、それは兼任園長であって、専任として就学前の子どもに関わることはありませんでした。貴重な経験の一部を紹介し、併せて子育てについて考えてみたいと思います。

子どもは登園時の親との一時の別れの寂しさを胸に園舎へ、親はそれを引きずり仕事場へ。降園時、親の迎えを今か今かと心待ちにしている子ども。迎えに来た親の顔を見た瞬間の、あの嬉しそうな笑顔。そ

の日の出来事を話しながらゆっくり家路へ。一番ほっとできる時間なのです。手を繋いで園を後にする光景に微笑まじさを感じます。親の愛情を一杯享受すると、翌日元気に起きて「さあ、今日もこども園に行こう」と、当たり前のように登園します。登園のエネルギーを興させるのが家庭での親子の触れ合いです。しかし、朝の親や家庭の異変を感じ取ると、登園を渋ったり親から離れるのを拒んだり、子どもの感覚はとても鋭敏です。こうしたことを繰り返しながら成長していきます。

また、成長の速さに驚く二年間でもありました。特に年齢の低い子どもほど目に見える成長が著しく、日々変容していくそのプロセスを目の当たりにするのが楽しかったです。最初は泣くことで要求を伝えていた子が、次第に声で反応し始め、やがて片言で、そして二語三語と口にするようになっていきます。私たち大人の表情やその場の雰囲気、言葉に込められた響きから大人が言わんとすることが分かるようになっていくのです。他人の私でさえこの子らの成長に感動するのですから、親であれば尚更のことでしょう。

人間は環境の動物であると言われるいます。未熟な乳幼児にとって、人的環境は

極めて大きな意味をもっています。それは家庭環境、強いては親です。私はこども園での親子の絆、成長の光景を目の当たりにしながらふと、角田光代氏の小説「八日目の蟬」の解説欄を思い出しました。

「……新生児を風呂に入れてやる。大きく開いた左の手のひらに赤ん坊の後頭部を置き、親指と小指で両耳をふさいで、背中から尻までを下腕に乗せ、……。おしめを換える。昔の布のおしめは大きな安全ピンで留めた。事故を避けるために必ず内側に左手を入れて、その上でピンをなるべく水平に刺す。万一の傷と痛みは自分の手で受け止める覚悟で……。一歳ぐらいになると歩き始める。手をつないで歩く。その時に大人と子どもの手は互いに自然につなげる位置にある。……こちらの人差し指を握るあの小さな手の感触。それを通じて伝わる動きと信頼感。……」

こうした子どもへの深い思慮を通じて、我が子の成長や信頼感の醸成を感じ、次第に子どもの気持ちがかかるようになり、親としての自覚が芽生え、膨らんでいくことで、親自身も変容していくのです。

核家族化、少子化、地域の崩壊、子育て情報の洪水、価値観の多様化等々子育てが難しい今日、何を頼りに子育てをしたらい

いか迷うのも強ち否定できません。子どもの見境のない「泣き」に成す術が分からず、虐待行為に走る親。マスコミの報道を見るたびに怒りを通り越して悲しく情けなくなります。さらに、我が子の問題行動を他人のせいにするモンスターペアレントの出現。いずれも子育てに悩み苦しむ親の姿です。そんな親のために、行政や民間団体等がいつでも、どこでも相談ができる支援の場を設け、さらにネットワークを広げ、子育ての厳しさを共有し、同時に親になる喜びが感じ取れるよう指導助言を繰り返していますが、相談件数は増える一方です。

子どもを育てるということは、実は親になるということではないでしょうか。子どもが親の背中を見て育つように、自分の子育ては、自分の親が自分にくれた養育そのもので、それは命あるものの不易の営みです。相談機関や身近にいる隣のおじさんおばさんの知恵も借りつつ、子育てをしながら、子どもは変わるのだということを理解し、その上自分の親が自分にくれた子育てを今一度思い起こし、親の子育てをなぞりながら、親への理解と感謝の気持ちをもってやるようになることが、名実ともに我が子の親になることです。



Q.どんなことを
教えてくれるの
ですか？



挨拶をした
あとに
お辞儀を
します。



浴衣の講座では、
帯の結び方や着方
だけでなく、たた
み方も一緒に教え
てくれました。



↑ 講座の最後は紙芝居の時間。緊張がほぐれ、紙芝居に夢中になる子供達。

← 正しいお辞儀の見本を示して下さる先生方を真剣な眼差しで見つめます。

今後のマナー教室

【第4回】
2015年1月25日(日)

【第5回】
2015年3月25日(火)

無作法な箸の使い方



叩き箸

食事中、お代わりを頼む
ときなどに、食器を箸で
たたくこと。



移し箸

箸から箸へ食べ物を移す



探り箸

器の中を箸で探る



渡し箸

箸を器の上に置く



涙箸

煮物の汁などを垂らし
ながら口に運ぶ



迷い箸

料理の上を迷いながら
箸を運ぶ



ねぶり箸

箸の先をなめる



刺し箸

箸で突き刺して食べる

↑ お箸の使い方の講座では、持ち方と同時に誤った箸の使い方も習いました。

親子で学ぶ マナー教室



全日本仏教婦人連盟ではNP O 法人伝統和文化マナーマイスター協会と
協力し「親子で学ぶマナー教室」を開催しております。

お座敷に正座をし、幼稚園とはまたひと味違ったほど良い緊張感の中、
「挨拶・お辞儀」「丁寧な言葉遣い」「食事の仕方・お箸の使い方」
「お片付け」などの講義を親子一緒に受けます。

参加者より次のような感想が届いていますので、ご紹介いたします。

浴衣を
お借り
します！



子供が大きくなるにつれ社会的な生活が増えてくると、「きちんとした子に育てなければ」と思う機会も多くなり、その度に妙な焦燥感に包まれます。

そんな中、6歳の娘と一緒に受けた「マナー講座～浴衣編」で、何よりも感銘を受けたのは挨拶の仕方でした。まず、浴衣を着るためには、正座をして「浴衣をお借りします」と大きな声で挨拶をしなければ、浴衣を受け取ることができないのです。一所懸命な子供達の姿は「浴衣を着る自分自身の行為」に対する敬意のようにも見え、不思議にさわやかな心境になったのです。

マナーというのは、あくまでも「かたち」なのではないかという疑念がどこかでありましたが、その「かたち」をなぞらえる事によって、相手も自分も気持ちよく生きいけるのなら、とても素敵な事だと思いました。そこにあるのは、「自分自身」がどう生きていくかという自律的な動機であり、「人にどう思われるか」という他人の視線ではありません。その事に気づいた途端に、子育ての妙なプレッシャーから解放され、ふっと肩の力を抜いて子供に関わっていけるような気がしました。

(37歳 / 1歳女兒、4歳男児、6歳女兒の母)

最近、マナーの大切さを折に触れて感じるようになりました。

マナーに自信がないと不安になり、本当なら楽しめるはずの会話や美味しい食事、そして美しい景色を感じる事が出来ないのです。この不安を解消するため、今回マナー教室を受講しました。

正しい挨拶の仕方や着物の着方、たたみ方、そして食事の仕方とお箸の使い方などを丁寧に実践を交えた講義で、大変参考になりました。子供にも分かるように説明をして下さった上に、子供に教える時のコツも教えていただけました。

「きちんと出来る」ということは子供にとっても楽なのだとは発見。叱られるという不安がないだけでその場を楽しめ、自信を持って目の前の事に集中し、大切なことに真摯に向かい合えるのだと思います。

大袈裟かもしれませんが、でもマナーを身につけるといことは、人生を謳歌し、またこの厳しさの中を確かに歩いていくために、必要不可欠な要素なのではないでしょうか。

(41歳 / 8歳女兒、13歳男児の母)



記念法要の旅を終えて

公益社団法人 日本仏教保育協会
常任理事 高山久照

国際仏教興隆協会、全日本仏教婦人連盟の共同企画、日本仏教保育協会共催で行われた本年のブダガヤ参拝旅行（2014年11月18日～25日）には各団体より16名が参加致しました。

日程の二日目、サルナートの「里親運動の子供たち」を訪問。全仏婦が支援する里親運動の現場を訪れるのは私にとって初めての経験でした。運営を続ける事にはご苦労や課題が多いと思われませんが、子どもにとっては行き届いた学びの場が与えられているといった感想を持ちました。運営の責任者、全青協の神仁師が「運動場などの確保のため土地を購入したいが、インフレの影響で周辺の土地が坪2～300万円と高騰しているのので現には困難がある。」と語っていた現地の状況は驚きであり、極めて印象的でした。

翌日ブダガヤ入りし、日程4日目に日本寺に於いて、昨年ブダガヤの爆弾テロの影響で実施をひかえたインド山日本寺開山40周年・光明施療院30周年記念法要が一年遅れで実施されました。日本寺法式により安田映胤国際仏教興隆協合理事長御導師のもと記念法要が執り行われ、式中全仏婦末廣久美理事長より日本寺に写経が奉納されました。法要後、場所を移し講堂に於いて菩提樹学園（日本の幼稚園・保育園にあたる、日仏保が支援している幼児施設）の子ども達全員による歓迎会が開催されました。我々ツアーを迎えての歌や踊りは、子ども達にとって待ちに待った「晴れ」の時間、指導した先生方にとっては緊張の時間だったことと思います。どの子も精一杯、楽しそうに元気に歌い踊って見せてくれました。

インド各地には近年高速道路が建設されています。旅の後半、4年前に完成したデリーとアグラを結ぶヤムナエクスプレスウェイを走るバスの車窓から、周辺の大規模開発の様子に目を見張りました。その高速道路路上では反対車線を逆走する車、馬に乗って車の横を走る姿もあって、いかにもインドと関心しました。現在12億6000万人余の人口を有し「発展する国」の力強さを感じる一方、大都市圏とブダガヤのあるビハール州などとの生活の質の差を感じる旅となりました。全仏婦理事長末廣様と副理事長篠田様と共に記念法要の旅をさせて頂き、今後の施設支援の有り方などについても意見交換をする良い機会を得ましたことに深く感謝申し上げます。

ありがとうございます！



Dancing ♡
菩提樹学園の子どもたち。
上手でしょう！ 素敵でしょう！
一所懸命、練習したの！



↓子供たちにはポ
シェットと鉛筆を
プレゼント

Present for children



1. 里親運動の子ども達 2. 授業風景。教壇の上の壁にはお釈迦さまの額 3. 光明施療院に30周年の記念に寄贈された「オートクレープ（消毒用医療器具）」と「体重計2台」 4. 入学希望者が多くて、教室を増設しています 5. 日本寺記念法要 6. 日本寺境内にある宝篋印塔に納経

平成二十七年 未

 公益財団法人 全日本仏教会 W F B 世界仏教促進盟日本センター 会長 齋藤 明聖 理事長 齋藤 明聖 〒105-0011 東京都港区芝公園四丁目七番四 〇〇三―三四三七―九二七五 URL: http://www.jbf.ne.jp E-mail: info@jbf.ne.jp	曹洞宗宗務庁 管 長 江 川 辰 三 宗務総長 釜田隆文 財政部長 橋本壽幸 参 議 羽仁素道 教化部長 中村見自 参 議 梅田泰隆 伝道部長 横井真之 人事部長 神野哲州 総務部長 金子清学 教学部長 田中千春 出版部長 塩竈博隆 〒105-0049 東京都港区芝二丁目二 〇三―三四五四―五四一 URL: http://www.sotozen-net.or.jp	総本山知恩院門跡第八十八世 浄土門主 伊藤 唯眞 〒605-1866 京都市東山区林下町四〇〇 総本山知恩院内 〇七五―五三一―二二一	浄土宗 宗務総長 豊岡 鐸尔 〒605-1062 京都市東山区林下町四〇〇―八 〇七五―五二五―二二〇〇(代)
日蓮宗宗務院 宗務総長 小林 順光 〒146-1854 東京都大田区池上一丁目二番五 〇三―三三七五―一七一八 FAX 〇三―三三七五―一七一八	臨済宗妙心寺派 管 長 嶺 興 嶽 〒616-1835 京都市右京区花園妙心寺町六四 〇七五―四六三―三二二	天台宗 天台座主 半田 孝淳 宗務総長 木ノ下 寂俊 〒520-0113 滋賀県大津市坂本四一六―二 〇七七―五七九―〇〇三二	真言宗智山派宗務庁 宗務総長 小宮 一雄 〒605-1095 京都市東山区東大路通り七条下ル 東瓦町九六四 〇七五―五四一―五三六
真言宗豊山派 宗務総長 坂井 智宏 〒112-0022 東京都文京区大塚五一四〇―八 〇三―三九四五―〇六三九	浄土真宗東本願寺派 本山 東本願寺 法主 大谷 光見 〒111-0035 東京都台東区西浅草一五―五 〇三―三八四―三九五	天台真盛宗 総本山 西教寺 〒520-0113 滋賀県大津市坂本五丁目一三一 〇七七―五七八―〇〇一三(代)	聖観音宗 浅草寺 執事長 守山 雄順 〒111-0031 東京都台東区浅草二―三一 〇三―三八四―二一〇一八(代)

平成二十七年 未

子ども支援ネットワーク 公益益 全国青少年教化協議会 財団法人 全青協は創立五十周年を迎えました 会長 半田孝淳 〒一〇四—〇〇四五 東京都中央区築地三十七ー五 築地Aビル6F ☎〇三一三五四—一六七二五	日本仏教鑽仰会 理事長 中山静麿 〒一七四—〇〇四一 東京都板橋区舟渡四一五一ー一 ☎〇三一三九六七一三三八八	公益財団法人国際仏教興隆協会 名誉会長 河村建夫 印度山日本寺住持 安田孝夫 理事 長 本乗光 事務総長 役員 一乘同 〒一五三—〇〇六一 東京都目黒区中目黒五十二四一五三 ☎〇三—三七一一七六〇八 FAX 〇三—三七一一七六七三 E-mail: jibaenifty.com	公益社団法人 シヤンティ国際ボランティア会 会長 若林恭英 〒一六〇—〇〇一五 東京都新宿区大京町三一 慈母会館二・三階 ☎〇三一五三六〇—一二二三三	公益社団法人 日本仏教保育協会 理事長 緑谷一雄 〒一〇五—〇〇一一 東京都港区芝公園四一七一四 ☎〇三一三四三一—七七四七五	一般社団法人 仏教情報センター 理事長 高橋隆岱 〒一一三—〇〇三三 東京都文京区本郷一四一六二〇二 ☎〇三一三八一—三六五七七 FAX 〇三一三八一—三六七九四	公益財団法人 仏教伝道協会 会長代表理事 沼田智秀 名誉会長(理事) 福山諦法 理事 木村清孝 同 上山大峻 同 桂紹隆 同 門脇邦彦 〒一〇八—〇〇一四 東京都港区芝四一三一四 ☎〇三一三四五五一五八五一	公益財団法人 全国青少年教化協議会 事務総長 齋藤昭俊 〒三二八—〇二〇五 栃木市鍋山町四七 宝蓮寺 ☎〇二八二—三一〇四五一	公益財団法人 国際仏教興隆協会 浄土宗 長専院 事務総長 正本乗光 〒一三五—〇〇二二 東京都江東区三好一丁目六番三号 ☎〇三一三六四一—五八四八	世界連邦日本宗教委員会 会長 田中恆清 〒六一四—八五八八 京都府八幡市八幡高坊三〇 石清水八幡宮内 ☎〇七五—一九八一—三三〇〇一	被災地NGO協働センター代表 CODEE海外災害援助市民センター理事 村井雅清 〒六五二—〇八〇一 兵庫県神戸市兵庫区中道通二一—一〇 ☎〇七八—一五七四—〇七〇一 FAX 〇七八—一五七四—〇七〇二	
--	---	---	---	---	---	--	---	---	--	--	--

平成二十七年 未

眞言宗智山派 大本山川崎大師平間寺 貫首 藤田隆乗 〒二一〇一八五二一 神奈川県川崎市川崎区大師町四一四八 ☎〇四四一二六六一三四二〇	眞言宗智山派 大本山成田山新勝寺 貫首 橋本照稔 〒二八六一〇〇二三 千葉県成田市成田一番地 ☎〇四七六一二二二一一一	眞言宗智山派 大本山高尾山薬王院 貫首 大山隆玄 〒一九三一八六八六 東京都八王子市高尾町二二七七 ☎〇四二一六六一一一一五	眞言宗智山派別格本山 高幡不動尊金剛寺 貫主 川澄祐勝 〒一九一〇〇三一一 東京都日野市高幡七三三 ☎〇四二一五九一〇〇三二一
別格本山 大須観音寶生院 貫主 岡部快圓 〒四六〇〇〇〇一 名古屋市中区大須二二二一四七 ☎〇五二一三三一六五二五 FAX 〇五二一三三一九三三三	大雄山 最乗寺 山主 石附周行 〒二五〇〇一二七 神奈川県南足柄市大雄町一一五七 ☎〇四六五一七四一三二二一 FAX 〇四六五一七三一一四六	別格本山 金剛院 院主 山田一眞 〒一九二〇九〇二一 東京都八王子市上野町三九一二 ☎〇四二一六二二一九五四〇	天台宗 圓珠院 住職 杉谷義純 〒一一〇〇〇〇二一 東京都台東区上野桜木一一五一三 ☎〇三一三八二一六〇四八
日蓮宗 靈跡本山 比企谷妙本寺 貫首 早水日秀 〒二四八一〇〇〇七 神奈川県鎌倉市大町一一五一一 ☎〇四六七一二二〇七七七	宗教法人 傳通院 貫主 麻生諦善 〒一一二一〇〇〇二 東京都文京区小石川三一四一六 ☎〇三一三八一四一三七〇一	西新井大師 總持寺 貫主 濱野堅眞 〒一二三一〇八四一 東京都足立区西新井一一五一一 ☎〇三一三八九〇一二三四五	日蓮宗本山 大坊本行寺 貫首 中野日演 〒四四〇〇二大田区池上二一〇一五 ☎〇三一三七五二一〇一五五 FAX 〇三一三七五三一〇一一一

新年賀謹

平成二十七年 未

眞言宗豊山派 徳聖寺 住職 中村啓識 〒九四〇〇〇〇七四 新潟県長岡市上田町二番地二五 ☎〇二五八―三三一―一五八六	眞言宗豊山派 金乗院 住職 小野塚幾澄 〒一七一〇〇三三 東京都豊島区高田二―二一三九 ☎〇三―三九七―一六五四	天台宗 正徳寺 住職 弘海厚久 〒二七〇―一五一六 千葉県印旛郡栄町安食三五二五 ☎〇四七六―九五〇―二一四	長谷川法律事務所 弁護士 長谷川 正浩 弁護士 大木 卓 弁護士 秋山 経生 弁護士 大島 義則 税理士 松近 彦 〒160-0022 東京都新宿区新宿一―九一三 エルスタンプザ四階 ☎〇〇三―三三三―五二八七 FAX 〇三―三三三―五二八七
深沢綜合法律事務所 代表弁護士 柴田龍太郎 〒一七〇―六〇二二 東京都豊島区東池袋三一―一― サンシャイン60 一二階一二号 ☎〇三―三九八―三三二六	公益社団法人全日本仏教婦人連盟 監事 公認会計士 木村匡成 〒一五一―〇〇五一 東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五一〇 ☎〇三―五七七―二〇六七	更生保護法人 日新協会 理事長 上原 章 〒一六―〇〇二二 東京都荒川区東尾久二―三四一七 ☎〇三―三八九―二四三二 FAX 〇三―三八九―二六三二	株式会社経営総合研究所 代表取締役 荒川昌夫 〒一四一―〇〇二二 東京都品川区上大崎二―一五―一九一六 ☎〇三―四五四〇―一六三
株式会社中山石渠 代表取締役 松山健二 〒一六四―〇〇一一 東京都中野区中央二―二二―二三 フジビル三階 ☎〇三―三三六―四一三五	株式会社大陸旅遊 取締役営業部長 永田政夫 〒一六〇―〇〇二三 東京都新宿区西新宿五―五―一六 ☎〇三―三三七―六二五一	天台宗寺院婦人連合会会長 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 維持会員 米田陽子 〒六八二―〇一三二 鳥取県東伯郡三朝町三徳一〇一〇 ☎〇八五八―四三二―二六六六	東京新潟県人会副会長 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 維持会員 高橋和子 〒一五一―〇〇五一 東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五一〇 ☎〇三―五七七―二〇六七

新年賀謹

平成二十七年 未

財団法人 全日本仏教尼僧法団 総裁 鷹司 誓玉 理事長 川名 観恵 副総裁 六條 照瑞 副理事長 沢田 教英 副総裁 日野西光尊 顧問 笹川 亮宣 〒一六〇―〇〇一五 東京都新宿区大京町三一―二六 慈母会館 ☎〇三―三三五―八一六八	法興山 中宮寺 門跡 日野西光尊 〒六三六―〇一一一 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺北一―一―二 ☎〇七四五―七五―二一〇六 FAX 〇七四五―四四―九二八五	圓照寺 門跡 村上亮順 〒六三〇―八四三 奈良市山町一三二二 ☎〇七四二―六一一―七六〇〇	浄土宗 淨眞寺 住職 清水英碩 〒一五八―〇〇八三 東京都世田谷区奥沢七―四一―三 ☎〇三―三七〇―一二〇二九
日蓮宗 妙高寺 住職 吉橋勝寛 〒一五七―〇〇六一 東京都世田谷区北烏山六―一三―一 ☎〇三―三三三―〇〇八二 FAX 〇三―三三三―〇〇八二	眞言宗智山派 慈眼寺 徳川将軍家日光社参御昼食所 住職 上野法忍 〒三三九―〇四一四 栃木県下野市小金井一―二六―二 ☎〇二八五―四四―三二一六	神田寺・真理舎 住職 友松浩志 〒一〇一―〇〇二二 東京都千代田区外神田三一―四―一〇 ☎〇三―三三五―一八六八三	高野山眞言宗 真成院 住職 織田隆深 〒一六〇―〇〇一一 東京都新宿区若葉二―七―八 ☎〇三―三三五―一七二八一
天台宗 慧日山寶泉寺 住職 濱田智純 〒一五〇―〇〇一一 東京都渋谷区東二―六―十六 ☎〇三―三四〇―七一三五九一	天台宗 金嶺寺 住職 末廣正栄 〒一一〇―〇〇〇一 東京都台東区谷中一―六―一七 ☎〇三―三八二―一四五二九	浄土宗 清岸寺 住職 原口正弘 〒一五一―〇〇七二 東京都渋谷区幡ヶ谷一―三六―一 ☎〇三―三三七―七三三〇五	妙智會教団 〒一五一―〇〇五三 東京都渋谷区代々木三―三―一 ☎〇三―三三七―〇五四〇三 FAX 〇三―三三七―〇五四九

新年賀謹

平成二十七年 未

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 名譽会長 鷹司 誓玉 〒三三〇―〇八五一 長野市元善町五〇〇 大本山善光寺大本願 ☎〇二六―二三四―〇一八八	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 会 長 東伏見 具子 〒六〇五―〇〇三五 京都市東山区粟田口三条坊町 六九―一 青蓮院門跡 ☎〇七五―五六―一三三四五	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 稲山 靈芳 〒五三八―〇〇五四 大阪市鶴見区緑三―四―二二 ☎〇六―六九―一二二〇一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 大賀美都子 〒三〇〇―一二二一 茨城県牛久市牛久町三三二―一四 ☎〇二九八―七三―三九八七
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 河原 時子 〒一四三―〇〇二五 東京都大田区南馬込五―二―一〇 ☎〇三―三七七―一八四九〇	真言宗豊山派 東覚寺 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 常務理事 岩脇 孝子 〒一一四―〇〇一四 東京都北区田端二―七―三 ☎〇三―三八二―一〇三二	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 本多 端子 〒一一〇―〇〇一五 東京都台東区東上野六―一―八―一七 ☎〇三―三八四―四三八九	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 松井 百合子 〒二七二―〇一四四 千葉県市川市新井一―九―一 ☎〇四七―三五七―八三一―九 FAX 〇四七―三五七―八三九九
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 加用 稔子 〒七三〇―〇〇四一 広島県広島市中区小町二―一 ☎〇八二―二四一―七四七一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 名譽顧問 六條 照瑞 〒五八三―〇〇二二 大阪府藤井寺市道明寺町一―一四 ☎〇七二―九一五五―〇二二三	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 顧問 林 恵智子 〒三五九―一一一六 埼玉県所沢市東町二四―一 ☎〇四―一二九―二九一五八七六	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理事長 末廣 久美 〒一一〇―〇〇〇一 東京都台東区谷中七―一四―八 ☎〇三―三八二―四四七四
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副理事長 篠田 節子 〒四二一―三三〇五 静岡県富士市岩淵三二八 ☎〇五四―五八―一〇二四六	静岡県仏教連合婦人会 会 長 関戸 あけみ 常任理事 一同 〒四二四―〇二〇六 静岡県静岡市清水区興津清見寺四二〇 ☎〇五四―三六九―〇九七〇	福岡県仏教連合婦人会 会 長 外松 太恵子 〒八〇一―〇八七三 福岡県北九州市門司区東門司二―一―一九 ☎〇九三―三三三―一二二七	【事務局】〒四二―〇〇〇一 静岡県静岡市葵区 安西一―一〇〇―一 瑞光寺内 ☎〇五四―二七一―一七二一
真言宗智山派 宝光院 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 理 事 大橋 百合子 〒三二九―〇五二四 栃木県河内郡上三川町多功一八八八 ☎〇二八五―五三―一八八〇一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理 事 湯浅 正江 〒二八六―〇〇二一 千葉県成田市土屋八 ☎〇四七―六二―一三三四一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 監 事 鈴木 トヨ子 〒一六八―〇〇七四 東京都杉並区上高井戸一―二七―一五 ☎〇三―一三三―〇二一五八六七	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 監 事 佐々木 公子 〒一五一―〇〇五一 東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五―一〇 ☎〇三―一五七―二一〇六七七
真言宗智山派 田無山總持寺 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 理 事 小峰 喜和子 〒一八八―〇〇一一 東京都西東京市田無町三―八―一二 ☎〇四―二四六―一〇〇四四	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理 事 村主 みや子 〒六六五―〇八六一 兵庫県宝塚市中山寺二―一―一 ☎〇七九―七一―八一〇〇六五	学校法人梅ヶ原幼稚園副園長 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 理 事 花岡 真理子 〒三三三―〇八〇七 栃木県小山市城東五―一―一二〇 ☎〇二八五―二五―一三三三三	

新年賀謹

平成二十七年 未

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 名譽会長 鷹司 誓玉 〒三三〇―〇八五一 長野市元善町五〇〇 大本山善光寺大本願 ☎〇二六―二三四―〇一八八	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 会 長 東伏見 具子 〒六〇五―〇〇三五 京都市東山区粟田口三条坊町 六九―一 青蓮院門跡 ☎〇七五―五六―一三三四五	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 稲山 靈芳 〒五三八―〇〇五四 大阪市鶴見区緑三―四―二二 ☎〇六―六九―一二二〇一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 大賀美都子 〒三〇〇―一二二一 茨城県牛久市牛久町三三二―一四 ☎〇二九八―七三―三九八七
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 河原 時子 〒一四三―〇〇二五 東京都大田区南馬込五―二―一〇 ☎〇三―三七七―一八四九〇	真言宗豊山派 東覚寺 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 常務理事 岩脇 孝子 〒一一四―〇〇一四 東京都北区田端二―七―三 ☎〇三―三八二―一〇三二	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 本多 端子 〒一一〇―〇〇一五 東京都台東区東上野六―一―八―一七 ☎〇三―三八四―四三八九	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 松井 百合子 〒二七二―〇一四四 千葉県市川市新井一―九―一 ☎〇四七―三五七―八三一―九 FAX 〇四七―三五七―八三九九
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 加用 稔子 〒七三〇―〇〇四一 広島県広島市中区小町二―一 ☎〇八二―二四一―七四七一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 名譽顧問 六條 照瑞 〒五八三―〇〇二二 大阪府藤井寺市道明寺町一―一四 ☎〇七二―九一五五―〇二二三	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 顧問 林 恵智子 〒三五九―一一一六 埼玉県所沢市東町二四―一 ☎〇四―一二九―二九一五八七六	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理事長 末廣 久美 〒一一〇―〇〇〇一 東京都台東区谷中七―一四―八 ☎〇三―三八二―四四七四
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副理事長 篠田 節子 〒四二一―三三〇五 静岡県富士市岩淵三二八 ☎〇五四―五八―一〇二四六	静岡県仏教連合婦人会 会 長 関戸 あけみ 常任理事 一同 〒四二四―〇二〇六 静岡県静岡市清水区興津清見寺四二〇 ☎〇五四―三六九―〇九七〇	福岡県仏教連合婦人会 会 長 外松 太恵子 〒八〇一―〇八七三 福岡県北九州市門司区東門司二―一―一九 ☎〇九三―三三三―一二二七	【事務局】〒四二―〇〇〇一 静岡県静岡市葵区 安西一―一〇〇―一 瑞光寺内 ☎〇五四―二七一―一七二一
真言宗智山派 宝光院 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 理 事 大橋 百合子 〒三二九―〇五二四 栃木県河内郡上三川町多功一八八八 ☎〇二八五―五三―一八八〇一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理 事 湯浅 正江 〒二八六―〇〇二一 千葉県成田市土屋八 ☎〇四七―六二―一三三四一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 監 事 鈴木 トヨ子 〒一六八―〇〇七四 東京都杉並区上高井戸一―二七―一五 ☎〇三―一三三―〇二一五八六七	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 監 事 佐々木 公子 〒一五一―〇〇五一 東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五―一〇 ☎〇三―一五七―二一〇六七七
真言宗智山派 田無山總持寺 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 理 事 小峰 喜和子 〒一八八―〇〇一一 東京都西東京市田無町三―八―一二 ☎〇四―二四六―一〇〇四四	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理 事 村主 みや子 〒六六五―〇八六一 兵庫県宝塚市中山寺二―一―一 ☎〇七九―七一―八一〇〇六五	学校法人梅ヶ原幼稚園副園長 公益社団法人全日本仏教婦人連盟 理 事 花岡 真理子 〒三三三―〇八〇七 栃木県小山市城東五―一―一二〇 ☎〇二八五―二五―一三三三三	

#

活動
第五十六回

静岡県仏教婦人会掛川大会

掛川市仏教婦人会 会長 永江美希

平成二十六年十月十七日の秋晴れの下、第五十六回静岡県仏教婦人会大会が掛川市生涯学習センターにて開催されました。

当日は掛川市のゆるキャラ「茶の宮きんじろう」君が迎えをして、約千二百人の会員の皆様にご来場をいただきました。御来賓の静岡県仏教会会長様をはじめ近隣の各仏教会会長様、全日仏婦役員の皆様他多数のご臨席を賜



り、大会が無事円成致しましたことを、掛川市仏教婦人会一同を代表し御礼申し上げます。

大会が掛川で開催されるのは二十一年ぶりで、前回の大会に携わった役員がほとんどいない中で、の任命となり、大変不安でした。しかし掛川市仏教寺院の奥様達で結成した実行委員会は、宗派を超えた仲間となり、皆前向きで積極的に協力をしてくださり大変心強く思いました。また、県本部役員の皆様にもご協力をいただき助けられました。

大会式典法要は、掛川市仏教会会長様はじめ仏教会会員の皆様にご協力をいただき、厳粛に執り行われました。講演講師には、ご縁あつて、庭園デザイナーの肩書を持つ横浜市の曹洞宗建功寺御住職、梶野俊明老師をお迎えし、「現代に生かす禅」を演題に大変

貴重なお話を聴くことができました。講演後は、県大会としては初めての試みである「お買い物広場」を設け、掛川の特産品をご紹介しますことができました。参加者の皆様には大変喜んでいただけたようで、スタッフ一同とても嬉しく思いました。

今回は、五十六回と回を重ねてきた歴史ある大会に実行委員長として携わる機会をいただきました。人と人との繋がりの大切さを学び、仏教の伝導に大切な役割をもつ会の素晴らしさを感じることができました。

ありがとうございました。

活動
平成二十六年

成道会に参加して

湯浅正江

12月2日(火) 有楽町マリオン朝日ホールで、東京都仏教連合会主催・全日本仏教婦人連盟後援による成道会が開催されました。都内のご住職方や檀信徒の皆

様約800名参加のもと、上野輪王寺門跡ご門主、神田秀順会長陛下を御導師に成道会法要が厳かに行われ、当連盟より献燈・献華・献香に参加させていただきました。

続いて一部の講演会では、玄侑宗久師の「不二の法門」―直観に従う勇気をもつ―のテーマのもと、「直観力を大切にしよう」「無意識の無心が一番尊い」というお話があり、二部はインドから来日された二人の、シタールよりもっと古い楽器サールランギーの演奏がありました。この合奏音は人の声に一番近いとのこと、インドの伝統楽曲と日本の歌が演奏されました。三部では舞台監督でもある俳優の渡辺えり師が、出身地東日本震災地での舞台公演の想いを30分間、パワフルにご講演されました。父方祖父が僧侶でいらっしやったことをお聞きし、テレビなどでご活躍の師をより身近に感じた感じがしました。

お釈迦様が成道された記念の日。にこの式典に参加をして心が豊かになり、とても意義のある一日となりました。

活動
第86回文化講座

巡礼の寺巡り

11月5日(水) 参加者34名は朝8時、東京駅に集合し、先ず千葉銚子の巡礼の寺・満願寺を訪れました。

犬吠埼を望む愛宕山にある満願寺は、昭和51年に開創されました。第27番圓福寺本尊十一面観世音の写しの尊像を奉安。巡礼が満願成就した報恩感謝のために開創された、坂東札所めぐりの中心の寺だそうです。中門を入ると西国、坂東、秩父、四国、諸国霊場の五ヶ所の仏足跡お砂場があり、



身体健全、病氣平癒の祈願をこめて、お砂踏みできるようになっています。



満願寺ご住職、平幡良雄師による法要後、吉方開運である満願寺や巡礼の素晴らしさについて丁寧に説明、ご案内していただきました。納経堂から望む犬吠埼も美しかったです。百八十八霊場巡拝を満願成就した方々が勧請した、各地のご本尊を奉安した、左右24間もある満願回廊は圧巻でした。

昼食後、圓福寺へ。圓福寺は

information

平成27年 新年修正会

日時 2月13日(金) 午前11時
場所 ザ・プリンスパークタワー東京
【第1部】 「法要」
【第2部】 「懇親会」 ※ご詠歌披露

会員・賛助会員・関係ご寺院に「ご詠歌ご披露」のご案内をいたします。皆さまのふるってのご参加を心よりお待ちしております。

文化講座

【第87回】
▼日時 1月21日(水) 午後2時 天王寺
▼内容 「お抹茶の頂き方」

【第88回】
▼日時 2月18日(水) 午後2時 天王寺
▼内容 「青年僧達と語らう～天台宗～」



合掌

東京の夜景を楽しみながら帰途につきました。気持ちよい秋の一日を有意義に過ごす事が出来ました。

仏婦 NEWS抄

私たちの
日々のあゆみ
2014年10月～12月

10月

October

- 1日 常務理事会（東京會館）
8日 『沙羅の樹』第2号発行・
発送
9日 第86回文化講座／日本紀
行との打合せ（天王寺）
10日 （公財）全日本仏教会第3
回都道府県仏教会・仏教団
体代議員会議出席（浜松）
15日 第5回理事会（天王寺）
第5回役員会（天王寺）
第85回文化講座（天王寺）
17日 第56回静岡県仏教婦人会
掛川大会出席（掛川市生
涯学習センター）
20日 大会前日打合せ（事務局）
21日 第61回全日本仏教婦人連
盟大会（東京會館）
22日 （公財）全日本仏教会第2
回支援検討会議出席（明
照会館）

- 23日 （公財）全日本仏教会第1
回財団創立60周年記念事
業実行委員会出席（増上
寺会館）

11月

November

- 4日 （公財）WCRP第4回女
性部会アンケート報告会
事前会議出席（中野・普
門館）
5日 第86回文化講座（千葉・
満願寺、圓福寺、佐原）
6日 会計打合せ
7日 孝道教団訪問（横浜）
11日 花の種運動打合せ（事務局）
17日 事務打ち合わせ（事務局）
18日、25日 インド記念法要の旅
会計打合せ（事務局）
27日
12月 December
2日 成道会の集い（有楽町マ
リオン）
9日 清水谷孝尚猊下本葬参列
（浅草寺）
10日 第6回役員会・委員会（天
王寺）
忘年会（上野精養軒
3153店）

事務局 だより



常々、全日仏婦六大事業に多く
の方々よりご協力いただきありが
とうございます。それぞれの活動
に運用させていただきます。
どうぞ今後ともよろしくお願い
いたします。（順不同・敬称略）

▼賛助金にご協力の方々

曹洞宗 浄土宗 念法眞教 天台
宗 臨済宗妙心寺派 真言宗須磨
寺派 真言宗大覚寺派 聖観音宗
浅草寺 法華宗陣門流 真宗木辺
派総本山知恩院 大本山永平寺
妙法院門跡 毘沙門堂門跡 円照
寺門跡 中宮寺門跡 大本山成田
山新勝寺 大本山川崎大師平間寺

- 16日 渡邊前天台座主本葬参列
（天台宗務庁）
17日 会計打合せ（事務局）
26日 『全佛婦』発送
28日 仕事納め

▼ご芳志を頂きました方々

小田義海 塩川英二 江森匡正
▼心の募金にご協力の方々
安井豊子 佐々木公子 望月みゆき
河原時子
▼アフガン干しぶどうにご協力の
方々
厚生保護法人日新協会 末廣久美
河原時子

▼タオル運動にご協力の方々

寂光院 村田寛子 長澤弘志
小梶洋子

▼里親運動にご協力の方々

由井つな子 安井豊子
佐々木公子 江森匡正

▼あおぞら奨学基金にご協力の方々

天王寺 末廣久美 峰島征子
鈴木トヨ子

▼「全佛婦」誌代にご協力の方々

森谷敏雄 岩脇孝子

▼写経運動にご協力の方々

【事務局扱い】

六條照瑞 由井つな子 村上和之
佐久間すみ子 上原桂子 河原時子
木村匡成 亀田洋子 大河原明子
横山俊子 鈴木トヨ子 高橋ふみ子
岩脇孝子 木南鈴子 長尾節子
佐々木公子 望月みゆき 松井百合子
塩入広子 福本治子 鈴木貞子
吉田規知恵 塚田成子 石井康子
井出和美 徳永美登利 鈴木千津子
末廣久美 篠田節子 山口偉理子

末廣綾

川崎晴弘 海老名初江

古原都百子

【青蓮院扱い】

東伏見具子 中川一子 田中譲治
松本晴美 渡邊久代 田畑節子
皆瀬佳子

【真言宗中山寺派中山寺扱い】

越宮君子 栗田茂行 東浦忠司
東浦まり子 日野伽羅 大芝和也
大芝文子 額田紀子 北畑スミ子
大塚祥子 濱田成和 三輪準二
池上敏江 森明麻美 森明竜一
田蔵友子 田蔵紗貴 濱崎佳子
由良富子 永野政子 高木節子
武田一枝 池田みさ子 伊藤厚子
周籐怜子 中山智子 森岡昭子
畑古明良 清水辰生 清水美枝子
桑原悦子 友森しつ誇 大塚須美子
西村節子 田中幸子

【新豊院扱い】

出雲君美子 植松園子 海野菊枝
太田とも子 花田照子 花田まさ子
望月みや子 佐野芳江 蓑恵美子
入沢光子

ご冥福を

お祈り申し上げます

聖観音宗 浅草寺
貫首 清水谷孝尚師
（賛助会員）

平成26年10月28日

【金蔵寺扱い】

梨本三千代 飯島恵美子 高木弘司
中岡美和 安田雅代 吉田和子
中島美世子

【總持寺扱い】

小峰喜和子 下田トミ子 藤崎美恵子
尾林幸恵 笠原ヒロ子 鶴田くらよ
関口隆代 岡部和子

【天王寺扱い】

池田悦子 森田彩加 宮本泰貴
田村忍 岡田輝余子 藤沼美春
橋立純子 渋谷恵美 山元嘉子
工藤蓉子 園池澄子

【天王寺写経会扱い】

酒井禮子 桐生紀子 永田治美
小林慶子 永井廣美 頓所則子
鈴木悦子 古崎恵子 小野寺晴美
中山友子 小板博 相原和子
眞田幹子 中村幸子 青山節子
高石ちどり 高田敬子 瀬古和子
長沼咸子 溝口順子 玉上優子
高野芳子 飯塚恵美子 前田悦子
塩川房子 鳥越美奈子 溝口満恵
近松悦子 一杉玲子 山口美和
宮川寿美 堀裕子 梶川うた子
峰島征子 樋山禮子 黒田和子
古崎千枝子 宮永時枝 田中キワ子
小梶洋子 衛藤秀子 黒住まさ子
嶋岡和代 小塚好子 奥田智恵子
永田和子 山辺喜美子 中島和子
鈴木文子 小林裕子 石塚千津子
佐々木裕子 横山智子

あとがき

明けましておめでとうございます
皆様方には、お健やかに新年を
お迎えのこととお慶び申し上げます。

当連盟も公益社団法人に移行し
てから、おかげさまで三年目を迎
えます。

公益法人への移行を機に、自然
環境問題、子どもたちへの古き良
き伝統文化の継承など、新しい事
業、活動に取り組み始めました。
この活動をタイムリーに少しでも早
くお伝えしたいとの思いから、平成
二十六年度より「沙羅の樹」(年二回
発行)を発刊いたしました。

なお、これまで年四回お届けして
おりました「全佛婦」は、各方面
の皆様方のご協力のもとに、年
二回発行させていただく予定で
ございます。

どうぞ、今後とも当連盟を温か
くお見守りいただきますとともに、
ご指導、ご尽力を賜わりますよう、
よろしくお願い申し上げます。

皆様方の福寿ご多幸を心よりお
祈りいたします。

合掌

― 松井記 ―